事例２

「不良交友」が予測される中学２年生への予防的な指導援助

～学級の凝集力を高めるかかわりを通して～

（指導援助者は学級担任，35才，男性，理科担当）

１　予測される問題行動　　不良交友

２　対　象　　中学校２年生　男子（Ｋ男）

３　問題行動予測の動機および関連資料

○学級編成替えがあり，新学級としてスタートした。口数は少ないが，学級内での言動には，威圧的で横柄な面が見られる。

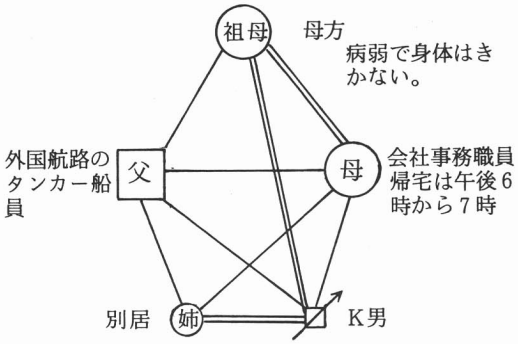
○１年生時の指導要録によると，学習成績は５段階評定で，保体が４その他は２。『学習への意欲は低いが，野球部への意欲は旺盛（おうせい）』との表現があった。前学級担任からは，『部活動の先輩を中心としたつっぱりにあこがれる傾向がある』との情報を得た。

○家族システム・力動図

（Ｋ男との面談および家庭訪問より）

父……船　員　46才　　母……会社員　46才

祖母…無　職　76才　　姉……会社員　20才



○親の養育態度

姉は高校生のころまで問題行動が多く，父親が留守がちということもあって，母親の注意や関心は姉へ向けられた。そのため，Ｋ男の存在感は乏しかった。姉の就職後も母親の仕事が忙しく，Ｋ男へのかかわりは薄かったが，姉のようになることへの不安から，褒めるよりしっ責することの方が多かった。父親の不在からくる母親のあせりも感じられる。

○ＹＧ性格検査の結果から，情緒不安定で社会的不適応の傾向，特に攻撃性，非協調性が強いことが読み取れる。また，２因子間の隔たり（Ａｇ－ｇ）で見ると，「陰気な沈滞的気分」と「強気な自尊心や積極性」が混在する複雑で不安定な状態も伺える。（プロフィールは後掲）

○部活動への意気込みは２年生になってからも変わらず，熱心に練習をしている。

ソシオメトリック・テスト（５月中旬実施）や日常観察によれば，学級での人間関係を軽視し，部活動を通しての先輩後輩の関係だけを重視しているようである。また，部活動の先輩たちは，校内の「つっぱりグループ」と関係がある。

しかし，本人のそのような意識とは別に，学級での人望はかなり高い。

ソシオメトリック・テストでは，選択３（相互選択２を含む）排斥５（相互排斥２を含む）被選択９　被排斥２である。

○学級全体の雰囲気は静かで，Ｋ男は物足りなく感じている。また，学級は，学校行事などで団結するという雰囲気は少ない。

４　予測診断

母親はＫ男に対して「姉とは違って，長男らしく。」との願いや期待感が強かったが，仕事の忙しさから年老いた祖母にＫ男を任せるしかなく，事あるたびに“しかる”だけの養育態度だった。やさしい祖母としっ責のみの母親の間で，Ｋ男は情緒的に不安定であり，しかも，父親のかかわりの乏しさもあって，規範性や耐性に欠けている。

また，母親の目が姉へ向いているときは寂しさを，母親からしかられるときは理解されないくや